

# 平成17年度 決算状況

平成17年度の決算が、9月定例会市議会で承認されました。  
 一般会計の決算は、歳入145億7,332万円、歳出143億1,900万円、歳入歳出差引額は、2億5,432万円で、実質収支は2億5,432万円の黒字、実質単年度収支<sup>\*1</sup>は、財政調整基金<sup>\*2</sup>を取り崩したため、5億838万円の赤字となりました。  
 また、財政健全化の指標である経常収支比率(財政の弾力性を判断する指標)は、前年度と比べて2.7ポイント増の98.5%、公債費比率<sup>\*3</sup>は、市債発行の抑制などにより、1.8ポイント減の9.9%となりました。

## 財政再建に向け行政改革を推進



私は、市長としてこの3年間、「市民と協働によるまちづくり」を推進するため、タウンミーティングの開催などを通じ、市民参画による開かれた市政運営に努めるとともに、『向日市行政改革アクションプラン』に基づき「税金に見合った行政」、「身の丈にあったスリムでスピードのある行政」へ向け、行政改革に取り組んでまいりました。

しかしながら、わが国の経済情勢は、長引く景気の低迷から脱却し、景気は回復基調にあるものの、少子高齢化の進展をはじめ、高度情報化などによる新たな行政需要への対応に加え、国の「三位一体の改革」による国庫補助負担金の縮減、廃止や、地方交付税の削減などが行われ、硬直化した本市財政にとっては、極めて厳しい情勢であります。

とりわけ、本市におきましては、少子高齢化対策をはじめ、遅れている道路整備事業等の都市基盤整備や市民の安心・安全を高める雨水浸水対策事業、北部地域の土地区画整理事業の推進など、多くの行政需要が山積しており、今後の財政見通しは、財政調整基金が底をつくなか、未だかつてない極めて憂慮すべき状況が予想されます。

このため、将来の世代に希望を与え、安心・安全なまちづくりを進めていくとともに、行政水準を可能な限り維持するため、『向日市財政健全化計画』を策定したところであります。

どうか市民の皆様におかれましては、このような非常事態ともいえる本市の財政状況を十分ご理解いただき、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

向日市長 久嶋 務

## 平成17年度決算額

区分		歳入	歳出
一般会計		145億7,332万円	143億1,900万円
特別会計	国民健康保険事業	44億2,957万円	44億431万円
	老人保健医療	43億6,441万円	43億6,441万円
	介護保険事業	22億204万円	21億8,803万円
	下水道事業	25億1,167万円	25億551万円
	大字寺戸財産区	138万円	135万円
	物集女財産区	236万円	225万円
水道事業会計	収益的収支(税抜)	14億3,250万円	14億4,101万円
	資本的収支(税抜)	2億7,367万円	5億2,883万円

## 一般会計の決算

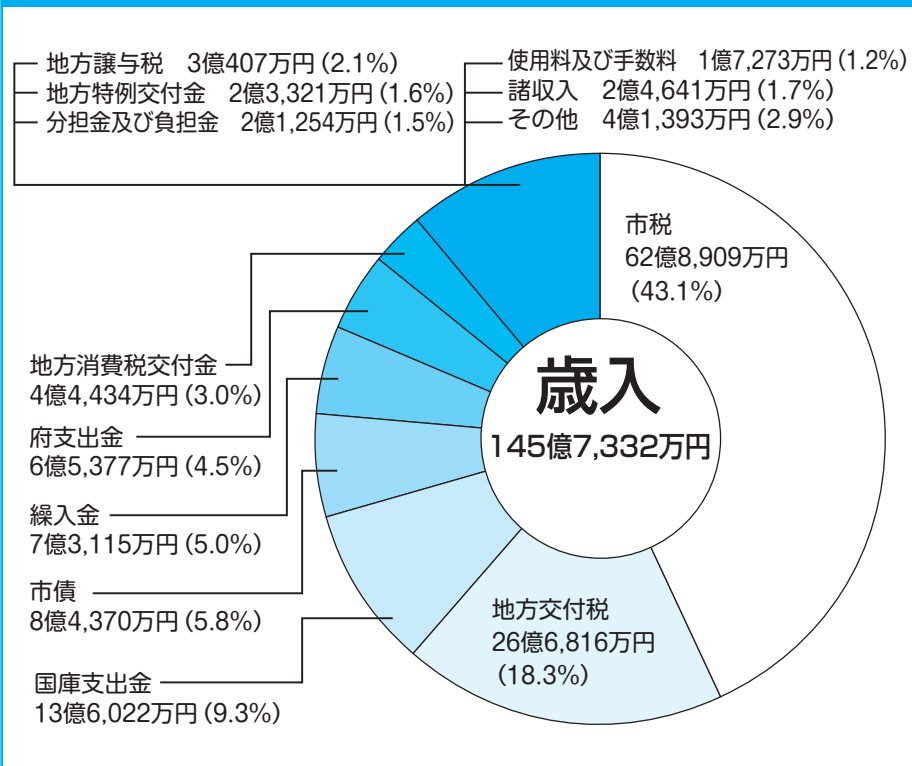
平成17年度の財政状況は、歳入面では、景気の回復があるものの市税収入の大きな伸びが期待できず、また、地方交付税等の基幹的な経常一般財源の減少など、歳入環境はきわめて厳しい状況でした。

一方、歳出面では、扶助費を中心とする義務的経費が収入を大きく上回る中で、一部事務組合負担金や各特別会計への繰出金、老朽化した公共施設の維持補修をはじめとする施設管理経費の増大など、引き続き厳しい財政状況となりました。

このため、平成17年度予算編成に基づき、投資的経費における事業選択と事務経費の縮減、見直しにより、本市の将来を見据えた施策の足がかりとなる事業をはじめ、安心・安全なまちづくりを最優先に、財源の重点的な配分を行いました。

予算執行にあたり、最小の経費で最大の効果が上がるように、経費の削減と効率的な執行に努める一方、市税や国・府支出金などの財源確保に努めるとともに、財源不足については財政調整基金や臨時財政対策債<sup>\*4</sup>などで補てんするなど、収支の均衡を図りました。

## 歳入状況



## 歳出状況

